

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第 8 条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

フリガナ 氏名 (姓、名)	ワラガイ タツシ 藁谷 達至	授与番号 甲 1465 号
学位の種類	博士(経済学)	授与年月日 2021 年 3 月 31 日
学位授与の要件	本学学位規程第 1 8 条第 1 項該当者 [学位規則第 4 条第 1 項]	
博士論文の題名	KIBS 埋め込み型高価格・高付加価値製品の生産と拡大の現代的意義についての一考察 —GVC を通じた供給システムと所得格差による市場形成—	
審査委員	(主査) 中本 悟 (立命館大学経済学部教授)	田中 祐二 (立命館大学経済学部教授)
	市野 泰和 (立命館大学経済学部教授)	
論文内容の要旨	<p>物財の生産性の上昇に伴い実質所得は高まり消費の高度化が進む。その結果、先進国では大量生産による標準商品ではない高機能・高品質であるがゆえに高価格である高付加価値 (HVA : High Value-Added) 製品の需要と供給、そして輸出入が拡大している。なお本論文では、高付加価値製品を先行研究により、各製品の世界価格よりも高い価格の製品とする。</p> <p>本論文はこの高付加価値製品の開発と製造には KIBS (Knowledge-intensive Business Services:知識集約型ビジネス・サービス) が重要な役割を果たしており、かつ高付加価値製品が先進国の比較優位商品になっていることを、輸入需要、輸出供給、および GVC (global value chain : グローバル価値連鎖) の側面から実証的に明らかにしている。</p> <p>「第 1 章 HVA 製品輸入市場の所得格差による形成」では、高付加価値製品の輸入大国であるアメリカを対象に、その輸入増加を所得格差の拡大と関連づけている。すなわちパネル回帰分析により、所得格差の拡大が高付加価値製品の輸入増加と中間価格帯製品の輸入量の減少をもたらしていることを実証した。</p> <p>「第 2 章 知識集約型ビジネス・サービス (KIBS) を利用した製造業の高付加価値化とその比較優位」では、アメリカの輸入市場における先進国からの高付加価値製品の輸入シェアとその輸出国の労働者一人当たりの KIBS 投入量との関係をパネル回帰分析によって推計し、KIBS 投入量が高付加価値製品のアメリカにおける輸入シェア拡大にもたらす効果は製造業の業種ごとに大きく異なっていることを示した。</p> <p>「第 3 章 高付加価値製品の垂直的特化と付加価値生産」では、KIBS を投入したドイツの高級自動車のアメリアへの輸出を事例に、GVC 分析で中東欧諸国を含む自動車生産のフラグメンテーションと各国の特化による垂直的国際分業を明らかにした。</p>	
	<p>以上の 3 章構成により、本論文は KIBS の投入によって高付加価値製品の開発と製造が実現し、ドイツの高級自動車の場合には国際的な垂直分業を伴いながら、それが比較優位となりアメリカに輸出される関係を実証的に明らかにした。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">論文審査の結果の要旨</p>	<p>近年、高付加価値製品と KIBS の台頭が注目されているが、従来これらは独立的に研究が行われてきた。著者はこれを結合し、①高付加価値製品の生産には KIBS が重要な役割を果たしており、②これらの高付加価値製品は先進国で製造され、③比較優位に基づいて、それらの需要が大きな先進国へ輸出される、このことを実証分析した点に本論文の最大の特徴がある。</p> <p>この研究は、以下のような諸点で学術的貢献がある。第 1 に W.J.ボーモル以来、低生産性ゆえに経済成長を制約すると考えられてきたサービスにもむしろ高付加価値を創出する機能があること、第 2 に KIBS 投入量が高付加価値製品の輸出拡大に及ぼす効果は製造業の業種によって大きく異なること、第 3 にドイツの高級車製造を事例に、中東欧諸国との垂直的分業が成立しており、この分業がこれら諸国の発展とドイツへの依存という両側面を強めていること、これらを実証的に解明した点である。さらに第 4 にアメリカにおける高付加価値製品の需要形成を所得格差と関連させて解明した点は独創的である。</p> <p>本論文の一部は日本国際経済学会において報告され、査読のうえで学会誌に掲載された。</p> <p>なお本論文に係わる公聴会および口頭試問において、高級自動車生産を事例としたことの積極的理由、生産補助金と比較優位との関係、技術的な KIBS と専門的な KIBS との関係、高価格・高付加価値と管理価格との関係など、いくつかのコメントがあった。申請者は質問には的確に答えるとともに、いくつかのコメントに対して今後のさらなる研究の方向を示した。</p> <p>公聴会と口頭試問の結果、以上により、審査委員会は一致して、本論文は本研究科の博士学位論文審査基準を満たしており、博士学位を授与するに相応しいものと判断した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">試験または学力確認の結果の要旨</p>	<p>本論文の公聴会は 2021 年 1 月 6 日(水)午前 10 時～11 時 15 分まで、アクロスウィング 1 階のアカデミック・セミナー室で行われたが、申請者は質疑に対しても極めて的確に回答した。</p> <p>主査および副査は、公聴会および審査委員による口頭試問における質疑応答を通して博士学位に相応しい能力を有することを確認した。</p> <p>したがって、本学学位規程第 18 条第 1 項に基づいて、博士（経済学 立命館大学）の学位を授与することが適当であると判断する。</p>